令和6年度市政改革懇話会資料

資料1

令和6年度行政評価における内部評価結果について

令和6年9月24日（火）
事務局：企画室

令和6年度行政評価における内部評価結果について

1 行政評価の目的

岩見沢市行政評価実施要綱 R1.5.31決定

行政改革大綱における経営型の改革として、令和元年度より本格導入。
総合計画で定めた成果指標の達成度による評価と関連する事業の進捗評価を合わせた行政評価を通じて、施策・事業の進捗状況の把握と適切な進行管理に役立てています。

※岩見沢市まちづくり基本条例においては、「効率的かつ効果的な市政運営を行うため、施策等について適切な評価基準に基づく行政評価を実施し、市民に公表」するよう規定。

行政評価の目的

●成果重視の行政運営への転換　●市民に対する説明責任　●職員の意識改革と政策形成能力の向上

2 評価プロセスと対象施策

1 評価プロセス

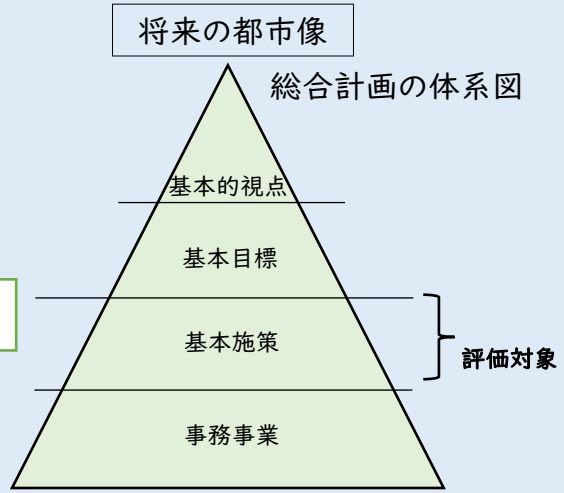
●一次評価（~7月下旬）：担当課による評価を行い、所管部長に報告
●二次評価（~8月下旬）：企画室×担当課との調整・補正

●**内部評価結果報告**：行政改革推進本部会議（事務局：企画室）

●**外部評価**（9/中~）：市政改革懇話会（対象施策の抽出含む）、パブリックコメント

R6年度は8施策が対象

●**最終評価**（10/下）：行政改革推進本部会議（事務局：企画室）



2 評価対象施策

●総合計画の基本計画の施策体系に基づく「全32施策」（令和5年度事業が対象）
＊事務事業は基本施策単位に関連付けて整理

3 評価基準等について

1 評価方法（評価基準）

【成果指標に対する評価】※A～4点 B～3点 C～2点 D～1点

評価の視点	評価
ア 現状値及び昨年値ともに向上／現状値より低下したが昨年値より向上	A
イ 現状値及び昨年値とほぼ同数	B
ウ 現状値より向上したが、昨年値より低下若しくは昨年値とほぼ同数	C
エ 現状値及び昨年値ともに低下	D

※4段階で評価（平均点） A:2.6点以上、B:2.0点～、C:1.3点～、D:1.3未満

【進捗状況に対する評価】※A～4点 B～3点 C～2点 D～1点

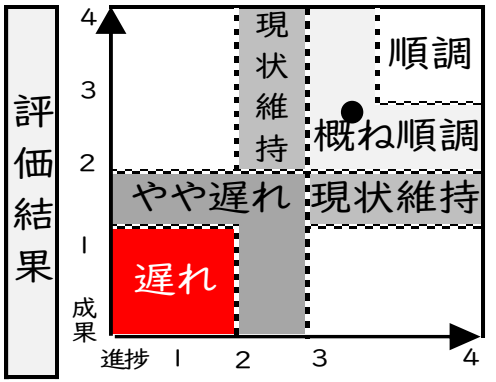
評価項目	評価の視点	評価	評価基準
達成度	・成果指標は向上（維持）、改善しているか ・目標の達成に向けた事務事業の展開に努力したか ・市民や社会のニーズを的確に捉えているか	A	十分である
		B	概ね十分である
		C	やや不十分である
		D	不十分である
有効性	・成果指標の向上（維持）、改善に有効な内容か ・事業実績は、成果指標の向上（維持）、改善に寄与する内容だったか ・事務事業の目的の達成のための手段は適切か	A	非常に有効
		B	有効
		C	やや有効でない
		D	有効でない
効率性	・成果を下げず、コスト削減できる余地はないか ・適正な受益者負担を求めているか ・実施体制に改善の余地はないか	A	改善の余地なし
		B	概ね効率がよい
		C	改善の余地あり
		D	大きく改善の余地あり

※施策に属する重点事業を4段階で評価（平均点） A:3.6点以上、B:3.0点～、C:2.0点～、D:2.0点未満

評価結果（成果と進捗のクロス評価）

評価基準	評価
成果指標・進捗状況ともにA	順調
成果指標はA、進捗状況はB 成果指標はB、進捗状況はA 成果指標・進捗状況ともにB	概ね順調
成果指標はB、進捗状況はC 成果指標はC、進捗状況はB	現状維持
成果指標はC、進捗状況はD 成果指標はD、進捗状況はC 成果指標・進捗状況ともにC	やや遅れている
成果指標・進捗状況ともにD	遅れている

成果と進捗の評価をクロスさせた総合評価



5種の評価それぞれ幅があるため、どの位置にあるか視覚的に表現

定量的な評価だけではなく、定性的な視点、中長期的な視点に立って施策を評価

令和6年度行政評価における内部評価結果について

内部評価済の施策評価シートは別途整理

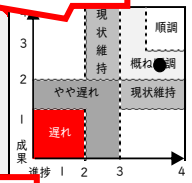
2 施策評価シート

令和6年度 岩見沢市施策評価シート

成果×進捗の**総合評価**

基本目標	5	**自然と調和した快適で暮らしやすいまち**
基本施策	3	**公共交通の利便性の向上** 市民生活や交流の基盤となる公共交通の確保と利便性の向上を図るため、地域住民や交通事業者、関係自治体と協力しながら、利用者のニーズに即した路線バスの運行や新たな公共交通の導入などの取組みを進めることにより、総合的な公共交通体系を確立するとともに、住民意識の醸成と利用の促進に努めます。
担当課		企画室

評価結果



今年度、市民意識調査を実施中
（次年度の行政評価に反映）

目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)		順位（H30⇒R3）
満足度	12.0	12.0		20位/32施策⇒23位/32施策
重要度	0.461	0.523		17位/32施策⇒12位/32施策
改善度	4.13	5.33		12位/32施策⇒9位/32施策

・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合（数値が大きくなるほど満足度の度合いが高くなります。）【0～100】
・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化（数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。）【-1～1】
・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化（数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。）【2018年調査：-22.88～20.26】

成果指標に対する評価

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	評価
市内路線バス利用者数	114万人 (H28)	↗	バスの市内線に乗車した人数（1乗車を1人として計上）	60万人	59万人	57万人	57万人	C
JR利用者数（岩見沢駅）	9,084人 (H26)	↗	JR岩見沢駅における1日の乗降者数	9,124人 最新R1	6,540人 最新R2	6,606人 最新R3	7,166人 最新R4	A
公共交通を利用する市民の割合	新規	↗	通勤、通学、買い物、通院等で公共交通機関を利用している市民の割合	－	23.5%	－	-	-

●成果指標の評価を4区分で評価（平均点）A:4点 B:3点 C:2点 D:1点
A：現状値及び昨年値ともに向上　C：現状値より向上したが、昨年値より低下
A：現状値より低下したが昨年値より向上　現状値より低下したが、昨年値とほぼ同数
B：現状値及び昨年値とほぼ同数　D：現状値及び昨年値ともに低下

成果指標評価　3.0　A

分析

・市民意識調査の結果では、満足度は若干下がりつつも、重要度が上がる傾向にあり、改善に向けて重点的に施策を推進していく必要がある。
・R5.5に新型コロナウイルス感染症が5類に移行した影響により、公共交通利用者数が回復傾向にあるため、引き続き利用促進に向けた取組みを行う必要がある。

市民意識調査による満足度や重要度の状況、指標の動向など

取組と成果

○利用促進の取組み
・バスの日（9/20）特別企画として、市内の小学生を対象にバスにまつわる絵を募集し、応募のあった作品を一定期間中央バス車内に展示する「バスの絵募集キャンペーン」を実施。248点もの作品が集まり、有明交流プラザにおいて、応募作品を元に作成したパネル展も実施した。
・バスの運転手不足に対する支援として、バス乗務員がお薦めする車窓景色フォトコンテストを実施。また、広報誌にバス乗務員等のインタビューをはじめとした特集記事を掲載したほか、東京で開催された移住フェアにて乗務員募集に係る情報発信を行った。
・観光列車「ひとめぐり号」及び「THE ROYAL EXPRESS」の運行に合わせ、岩見沢駅ホームにて観光協会と連携した特産品の販売やお出迎えを実施し、ツアー参加者に対して岩見沢市の魅力をPRした。
・室蘭線沿線自治体と連携して札幌市で開催された「鉄道フェスティバルin北海道」に出展し、沿線特産品や鉄道グッズの販売を行った。
・南空知の自治体と連携して、小学生等を対象とした公共交通の学習会と乗車体験を実施。また、公共交通を利用した周遊モデルコースのパンフレットを作成し、利用促進を図った。
・成果指標については、バス利用者・JR利用者共に現状値を下回ったが、利用促進の取組等によりバス乗務員を確保することができた。また、JR室蘭線については、アクションプランの実施により沿線自治体とJR北海道が一体となって取り組む機運が醸成され、持続的な公共交通の確保に向けた取組を行うことができた。

取組みの進捗状況・施策の成果や要因、達成度、過程など

現況と

・少子高齢化や免許返納者数の増に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけとして普及したテレワーク・ウェブ会議が一般化した影響も含め、新型コロナウイルス感染症拡大以前と比較しても利用者は回復しきっておらず、依然として公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にある。
・交通事業者が抱える乗務員の確保等の課題解決に向けて、関係機関と連携し、交通サービスの維持に取り組む必要がある。

懸案事項や社会経済情勢を踏まえた課題など

今後の

・「岩見沢市地域公共交通計画」に基づき、通勤や出張等における公共交通利用の啓発や、小学校等を対象とした出前授業の実施等の公共交通利用促進に向けた取り組みを行う。
・沿線周辺自治体と連携し、利用促進に向けた対策を講じるとともに、住民ニーズと費用対効果を基本として必要な検討を行っていく。

進展させる考え方、優先的に改善する取組みなど

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価 達成度	有効性	効率性
【企画室】	デマンド型乗合タクシーの運行		B	A

事業の実績・成果指標以外の客観的成果など

●重点事業の評価を4区分で評価（平均点）A:4点 B:3点 C:2点 D:1点

	【達成度】	【有効性】	【効率性】
A	十分である	非常に有効	改善の余地なし
B	概ね十分である	有効	概ね効率が良い
C	やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり
D	不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり

事業評価　3.7　A

事業に対する進捗評価

事務事業一覧

（単位：千円）

	事務事業名	事業概要	事業費 上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費（人件費含む） R3実績	R4実績	R5実績
1	生活交通確保対策事業 【企画室】	JRや路線バスなどの維持や利用促進に取り組むとともに、これらの公共交通機関の利用が難しい地域はデマンド型乗合タクシー等でカバーするなど、民間事業者と協力して面的な公共交通ネットワークの構築に取組む	97,259 (1.7人) 109,159	77,920 (1.5人) 88,570	66,241 (1.5人) 77,041
2	特定地方交通線転換関連事業 【企画室】	特定地方交通線（万字線・幌内線）廃止に伴い設置した転換促進関連施設の維持管理及び転換関連事業基金運用利子の積立を実施	7,439 (0.5人) 11,039	9,731 (0.5人) 13,331	3,428 (0.5人) 7,028

【外部評価意見】

パブリックコメントや市政改革懇話会における意見等

5-1 令和6年度の内部評価について

令和6年度評価での新たな視点について

【課題】
- 成果指標（KPI）による定量的な評価によって施策の総合評価が左右されるため、定性的な評価の視点を加えることが必要
- 前年度との比較だけではなく、施策の方向性を全体的に捉えた評価をすること必要。

【見直し内容】
- 指標（数値）の増減だけではなく、事業の有効性や効率性を踏まえて、評価を補正（定性評価）
- 「取組と成果」「現況と課題」「今後の方向性」は、指標の増減のみによる評価とならないよう記載内容を修正・追記（定性評価＋中長期的な視点）

新たな視点で評価の補正等をした主な施策

評価の視点	施策	見直し内容
定性的な視点で評価を見直した施策	2-2 高齢者福祉の充実	有効性の観点から介護サービス利用者負担軽減事業を評価ダウン
	2-4 地域福祉の推進	民生委員の活動状況を踏まえ評価アップ
	3-5 地域資源を活かした観光の振興	経営改善の取組を踏まえふるさと毛陽振興事業の効率性をアップ
事業成果等を踏まえ、課題や今後の方向性等を整理した施策	1-3 消防・救急体制の充実	消防・救急体制の充実に向けた消防団員の充足の方向性を整理
	2-5 社会保障制度の適正な運営	健康寿命の延伸に向けた今後の方向性を整理
	4-1 子ども・子育て支援の充実	乳幼児健診の方向性やあそびの広場の方向性を整理
	4-3 生涯学習の振興と社会教育の充実	市民の学習機会にかかる現況と課題、今後の方向性を整理
	4-4 芸術文化・スポーツの振興	スポーツ行事等にかかる現況と課題、今後の方向性を整理
	5-1 魅力ある都市空間と快適な居住環境の形成	空き家にかかる取組みの今後の方向性等を整理
	5-6 環境の保全と循環型社会の形成	一般廃棄物の減量に向けた現況と課題等を整理
	7-1 地域情報化の推進	DXの推進に向けた今後の方向性を整理

5-2 内部評価結果について

コロナ禍からの回復に伴う特別措置

○R5年度事業は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、R4年度と比較すると数値が上昇している指標が多い。

○コロナ前の水準（現状値）まで回復していない下記の成果指標については、取組み状況等を分析した上で昨年度と同様、本来の評価基準（A評価）を適用せず、B評価とすることで整理を行った。

【コロナの影響を受けた成果指標】

施策ｺｰﾄﾞ	施策名	成果指標	現状値	方向性	評価対象年次						評価
					H30	R1	R2	R3	R4	R5	
1-3	消防・救急体制の充実	消防訓練参加者数	36,489人 (H28)	↗	29,776人	28,211人	4,963人	6,140人	12,047人	26,203人	B
1-3	消防・救急体制の充実	救急講習受講者数	1,961人 (H29)	↗	1,409人	2,167人	402人	386人	454人	1,369人	B
2-1	健康づくりの推進	がん検診受診率	4.85% (H28)	↗	4.04%	4.01%	3.44%	3.69%	3.87%	3.89%	B
3-5	地域資源を活かした観光の振興	観光入込客数	119万人 (H28)	↗	108万人	111万人	59万人	61万人	87万人	93万人	B
3-5	地域資源を活かした観光の振興	市内宿泊施設の稼働率	52.1% (H28)	↗	47.9%	47.6%	36.3%	41.3%	48.9%	50.7%	B
4-1	子ども・子育て支援の充実	子育てに関する相談件数	489件 (H28)	↗	506件	437件	312件	184件	196件	205件	B
4-1	子ども・子育て支援の充実	子育て支援センターの利用親子組数	1,458組 (H28)	↗	1,241組	1,156組	530組	505組	563組	622組	B
4-3	生涯学習の振興と社会教育の充実	生涯学習センター「いわなび」利用者数	128,144人 (H28)	↗	117,457人	112,099人	55,126人	57,909人	81,895人	91,834人	B
4-4	芸術文化・スポーツの振興	「市民文化祭」の参加者数	9,175人 (H28)	↗	8,008人	8,045人	1,532人	1,474人	2,663人	3,537人	B
5-3	公共交通の利便性の向上	JR利用者数（岩見沢駅）	9,084人 (H26)	↗	9,588人	9,400人	9,124人	6,540人	6,606人	7,166人	B

5-3 内部評価結果について

アフターコロナによる指標への影響

〇コロナ禍の影響を受けていた指標の多くは数値が上昇しているが、一方で、一部の事業では、アフターコロナによる様々な変化に伴う指標への影響もあると考えられる。傾向の分析には、引き続き、データの推移をみていくことが必要。

例）生活様式の変化、アフターコロナのリバウンド需要、オンライン等のDXの推進

【ニーズの変化等による影響があると思われる成果指標】

施策ｺｰﾄﾞ	施策名	成果指標	現状値	方向性	評価対象年次						評価
					H30	R1	R2	R3	R4	R5	
2-1	健康づくりの推進	各種健康教室参加者数	6,915人 (H28)	↗	6,095人	7,431人	1,243人	340人	2,465人	2,146人	C
3-2	商工業の振興と中心市街地の活性化	歩行者（自転車）通行量	3,626人 (H29)	↗	3,822人	3,419人	2,683人	2,818人	3,211人	3,147人	C
3-7	国際・地域間交流の推進	中高生の姉妹都市交流事業参加者数	401人 (H28)	↗	424人	435人	中止	中止	441人	448人	A
3-7	国際・地域間交流の推進	国際交流事業参加者数	150人 (H28)	↗	229人	190人	1638 閲覧者数	1821 閲覧者数	109参加者 429閲覧者数	242人	A
4-4	芸術文化・スポーツの振興	資料館及び指定文化財の利用者数	6,239人 (H28)	↗	5,296人	8,834人	3,330人	3,218人	5,328人	5,334人	C
4-4	芸術文化・スポーツの振興	「スポーツの日」記念岩見沢市総合体育大会の参加者数	2,692人 (H28)	↗	3,014人	2,843人	1,813人	1,505人	2,974人	2,550人	D
4-3	生涯学習の振興と社会教育の充実	市民大学及び高齢者講座の参加者数	270人 (H28)	↗	249人	261人	38人	48人	108人	468人	A
5-7	地域情報化の推進	生活面におけるICT利活用機能件数及び利用数（教育、医療、健康等）	新規	↗	6機能 21,772件	7機能 24,171件	10機能 24,879件	14機能 41,118件	18機能 87,365件	22機能 98,383件	A

令和6年度行政評価における内部評価結果について

施策別の内部評価結果

●:R6外部評価対象施策　　:評価アップ（対前年度）　　:評価ダウン（対前年度）

基本目標／基本施策	R5 最終評価	R6 内部評価結果	R3市民意識調査結果（順位） 満足度	重要度	改善度
1地域で支え合う安全・安心なまち					
1 地域防災力の向上	概ね順調	概ね順調	18位	17位	18位
2 総合的な雪対策の推進	概ね順調	概ね順調	4位	28位	30位
3 消防・救急体制の充実	順調	順調	1位	31位	32位
4 安全・安心な生活環境の確保	概ね順調	現状維持	5位	14位	27位
5 地域コミュニティの活性化	概ね順調	概ね順調	12位	22位	23位
6 男女共同参画社会の実現	順調	概ね順調	22位	24位	16位
2みんなが健康で元気に暮らせるまち					
1 健康づくりの推進	概ね順調	概ね順調	2位	29位	31位
2 高齢者福祉の充実	順調	概ね順調	7位	21位	25位
3 障がい者福祉の充実	概ね順調	概ね順調	14位	22位	21位
● 4 地域福祉の推進	現状維持	概ね順調	20位	10位	12位
● 5 社会保障制度の適正な運営	概ね順調	現状維持	15位	6位	11位
6 地域医療体制の充実	順調	順調	9位	8位	19位
3活力と賑わいに満ちた魅力あふれるまち					
1 農林業の振興	概ね順調	概ね順調	21位	30位	24位
2 商工業の振興と中心市街地の活性化	概ね順調	概ね順調	28位	20位	10位
● 3 新産業の創出と企業立地の推進	順調	順調	32位	19位	7位
4 雇用の拡大と就業環境の充実	現状維持	現状維持	31位	15位	5位
● 5 地域資源を活かした観光の振興	順調	現状維持	27位	25位	15位
6 移住・定住の促進	概ね順調	概ね順調	30位	16位	8位
7 国際・地域間交流の推進	概ね順調	概ね順調	29位	32位	22位
4豊かな心と生きる力をはぐくむまち					
1 子ども・子育て支援の充実	順調	順調	13位	17位	20位
2 学校教育の充実	現状維持	現状維持	10位	9位	17位
● 3 生涯学習の振興と社会教育の充実	現状維持	概ね順調	17位	10位	13位
● 4 芸術文化・スポーツの振興	概ね順調	概ね順調	8位	25位	26位
5自然と調和した快適で暮らしやすいまち					
● 1 魅力ある都市空間と快適な居住環境の形成	順調	概ね順調	25位	2位	2位
● 2 快適な道路環境の確保	概ね順調	概ね順調	10位	6位	14位
3 公共交通の利便性の向上	現状維持	現状維持	23位	12位	9位
4 上下水道の適正な運営	概ね順調	概ね順調	6位	27位	29位
5 緑豊かなまちづくりの推進	順調	順調	3位	13位	28位
6 環境の保全と循環型社会の形成	概ね順調	概ね順調	16位	5位	6位
7 地域情報化の推進	概ね順調	順調	23位	4位	3位
6市民とともに創る持続可能で自立したまち					
1 開かれた市政の推進	概ね順調	概ね順調	19位	3位	4位
2 持続可能な行財政基盤の確立	概ね順調	概ね順調	25位	1位	1位

内部評価結果の内訳

評価結果	R5最終評価	R6内部評価	割合
順調	9	6	18.8%
概ね順調	18	20	62.5%
現状維持	5	6	18.8%
やや遅れている	0	0	0.0%
遅れている	0	0	0.0%

評価アップ（3施策）

2－4　地域福祉の推進　現状維持⇒概ね順調
4－3　生涯学習の振興と社会教育の充実　現状維持⇒概ね順調
5－7　地域情報化の推進　概ね順調⇒順調

主な要因

・事業実績の改善、施設利用の増、DXの推進による増

評価ダウン（6施策）

1－4	安心・安全な生活環境の確保	概ね順調⇒現状維持
1－6	男女共同参画社会の実現	順調⇒概ね順調
2－2	高齢者福祉の充実	順調⇒概ね順調
2－5	社会保障制度の適正な運営	概ね順調⇒現状維持
3－5	地域資源を活かした観光の振興	順調⇒現状維持
5－1	魅力ある都市空間と快適な住居環境の形成	順調⇒概ね順調

主な要因

・人口減少・高齢化に伴う地域活動の担い手不足
・高齢化の進行に伴う社会保障費の増大
・アフターコロナにおける生活様式の変化等

6 今後の進め方

1 外部評価

◆市政改革懇話会による外部評価

①対象施策担当課長からの説明

②懇話会委員との質疑応答及び意見交換（ヒアリング）

③懇話会委員による意見交換、意見集約

◆パブリックコメント
①市ホームページ公表（内部評価結果）
※市民意見に対する回答、施策評価シートへの意見反映

2 最終評価

◆今後の施策に反映することに主眼を置き、最終評価
※評価結果は、市ホームページに公表

32施策のうち、8施策のヒアリングを実施

1日目【9月24日（火）13:30～16:30】予定

施策番号	R6年度外部評価対象施策	担当課（説明課）
2-4	地域福祉の推進	福祉課
2-5	社会保障制度の適正な運営	保護課、保険年金課
5-1	魅力ある都市空間と快適な居住環境の形成	市民連携室、都市計画課、建築課
5-2	快適な道路環境の確保	建設管理課、都市計画課、土木課

2日目【9月25日（水）13:30～16:30】予定

施策番号	R6年度外部評価対象施策	担当課（説明課）
4-3	生涯学習の振興と社会教育の充実	生涯学習推進課、文化・スポーツ振興課、図書館
4-4	芸術文化・スポーツの振興	企画室、生涯学習推進課、文化・スポーツ振興課
3-3	新産業の創出と企業立地の推進	企業立地推進室、情報政策課
3-5	地域資源を活かした観光の振興	観光物産振興課

岩見沢市市政改革懇話会委員　（敬称略・順不同）

選出区分	氏名	所属団体等
学識経験者	阿 部 啓 吉	株式会社ｺﾐｭﾆﾃｨｴﾌｴﾑはまなす
学識経験者	鈴 木 聡 士	北海学園大学工学部生命工学科
学識経験者	角　美弥子	北海道教育大学岩見沢校
地域経済団体代表	木 村　　聡	岩見沢商工会議所
女性団体代表	東海林 公子	いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議
町会・自治会代表	米内山 定雄	岩見沢市町会連合会
町会・自治会代表	千 場 法 美	岩見沢市町会連合会

後期（R5～R9）の行政評価に向けた考え方

■前期行政評価（内部評価）における課題・反省点

・前年度との比較による単年度評価となる傾向が高い。
・施策の一部でしかない成果指標が、評価全体に与える影響が大きい。
・市民意識調査との間に乖離が発生している。

■後期の行政評価に向けた取組み

・計画期間全体を考えた中長期的なスパン且つ客観的な視点での評価を実施
・市民意識調査との乖離の要因を分析したうえで、市政情報の発信の機会としても行政評価を活用（R6調査実施中）
（視覚的に分かり易い資料とともに公表）